

Q 6 教材を提示する際、どんな方法が考えられるでしょうか。



教師による読み聞かせが一般に行われていますが、教材や子どもの実態をふまえ、以下のような方法を織り交ぜることで、より一層、教材のイメージを共有することができます。また、自分ごととして物事を考えていく姿が生まれ、ねらいに迫ることができます。



教師による読み聞かせでは、教師は事前に教材をしっかりと読みこみ、児童が早く内容を理解できるように、教材のどこを強調すればよいのかななどを考え、丁寧に読むことが大切です。

読み物教材の提示の工夫例

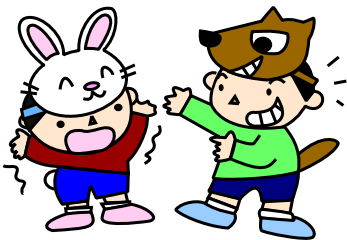
場面絵・人物絵・キャラクター絵

場面展開のポイントとなる絵や写真などを拡大して提示します。登場人物やキャラクターの絵を提示することも効果的です。



紙芝居・人形・ペープサート

紙芝居のように提示したり、人形やペープサートなどを生かして劇のようにして提示したりすることが、特に低学年においては、内容理解の手助けになります。



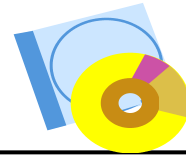


実物の提示や教材場面の再現

教材に登場する実物やその模倣物を提示したり、実際の場面を再現したりする方法です。教材場面の再現では、例えば左の写真のように、立体的な木、マグネットで取り外しができる落ち葉などをパネルシアター風に提示することで、情景がとらえやすくなります。

音声・音楽・効果音

鳥の鳴き声、雨音などといった自然を表現する音や、赤ちゃんの産声、心臓の鼓動音などの生命の尊さに関わる効果音などを活用することができます。教師による教材の読み聞かせの BGM として、教材のイメージに合った曲を流す方法もあります。

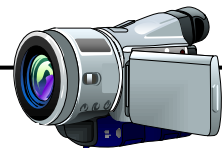


湧き水の様子を映像と音で提示することで、より教材の世界に引き込む方法もあります。

実物投影機・ビデオカメラ・パソコンなどを

使った提示

読み聞かせしたものを録音・録画して流したり、場面絵や実物などをテレビに映示したりする方法です。写真や絵等をパワーポイントなどに取り込んでおくやり方もあります。



これらの他にも、印象に残したい言葉を吹き出しで提示する方法があります。強調したい言葉はキーワードとして活用するなど、様々な提示方法が考えられます。



※なお、多くの情報を提示することが必ずしも効果的だとは言えず、選び抜かれた情報の提示が、想像をふくらませる上で効果的な場合もあるということに留意しておきましょう。